

地域と学校 その17 子どもたちの様子

小松 尚 (名古屋大学大学院環境学研究所准教授)

9月末の水曜日の午後に、私の研究室の学生が中心になって企画運営するデザインワークショップを開催しました。わくわくスクールという地域や外部の方が講師になって行う活動の一つとして2005年度から始め、今回は通算20回目です。今回のテーマは「ここはどこ!? われらサウンド探検隊」。抽選で選ばれた24人の子どもたちが大学生とグループになって、クイズ形式で学校の中の音を探し回るというもの。最後の答えあわせでは、一問ごとに歓声が上がりました。さて今回の話題は、新しい校舎での子どもたちの様子です。

新しい校舎での生活

2005年1月。真新しい校舎で子どもたちの生活が始まりました。4月からではなく、冬休みに引越しをして3学期から新校舎での勉強を始めたのは、卒業する6年生のためでした。3か月だけでも新しい校舎での生活をさせてあげたい。学校の先生方や地域の方々の方々の気持ちでした。

新しい校舎は、南側に教室、北側に廊下という標準設計の学校ではありません。2階建てでありながら、土地のレベル差から上下階ともに接地しているという構成です。また上足のまま駆け出せる中庭はこの学校の特徴です。空間的に真ん中であって上下階をつないでおり、1・2年生の教室は中庭に直接面しています。広々としたスペースではなく、土地のレベル差を解消するように階段や滑り台、ステージ、小さなロッククライミングの壁などが、つくりこんであります。子どもたちがどんな過ごし方をするのか。私は興味深々でした。

しばらくは学校に定期的に通って、様子を見ていました。午前中には10分、20分、10分の休み時間がありますが、最初の10分間の休み時間になると、子どもたちが中庭に飛び出してきました。滑り台で遊ぶ子、カブトムシの籠を持ち出して自慢しあう子、隠れ家のような場所でお話をする子……。中庭に面した教室の1・2年生の姿が多いですが、中には上級生の姿も見えます。

ある日の20分休みのこと。1年生の担任の先生がギターを片手に中庭に出てきました。何をするのかと思ったら、そこで子どもたちと歌を歌い始めました。「石榑の里」という、いまでは学校のイベント時によく歌われる歌なのですが、その練習を兼ねた私たちへのお披露目でした。

中庭でのルール

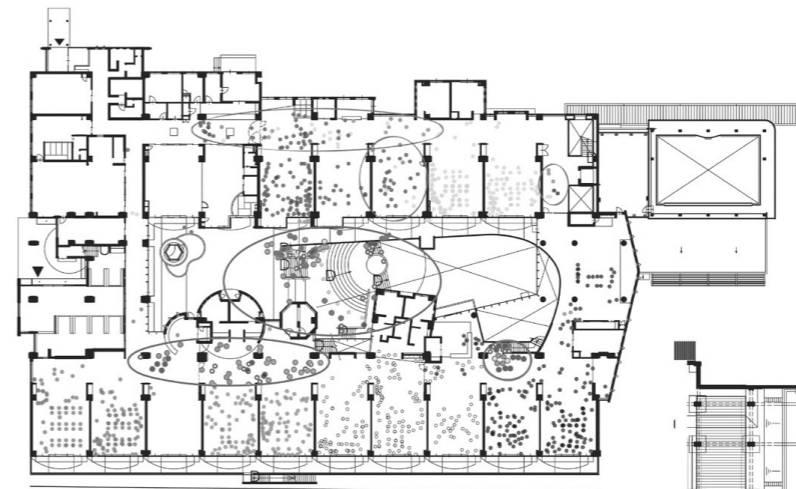
ある時、石榑小学校の校舎のことを聞きつけて見学にやってきた学校関係者が中庭を見て、「こんな場所が実際につくられていることが信じられない」と漏らしたそうです。コンクリート製の滑り台、子どもの背丈以上ありながら簡単に登れる壁など、ひとつ間違えると怪我につながるような遊び場が学校の真ん中にあることに対してです。

子どもたちの怪我についての心配は、建設委員会でも話題になりました。しかし、結論としては、「危険を察知して自分を守ることを覚えて欲しい」というものでした。

実際に新校舎に移って暫くして、中庭の滑り台を上から滑ってきた子と下から登ってきた子がぶつかって、腕の骨にひびが入ったことがありました。子どもたちは児童会で、下からは登らない、後ろ向きでは滑らない、順番に滑る、小さい子優先といったルールを決めたそうです。

休み時間の滞在場所

中庭などで異学年での遊びが行われています。

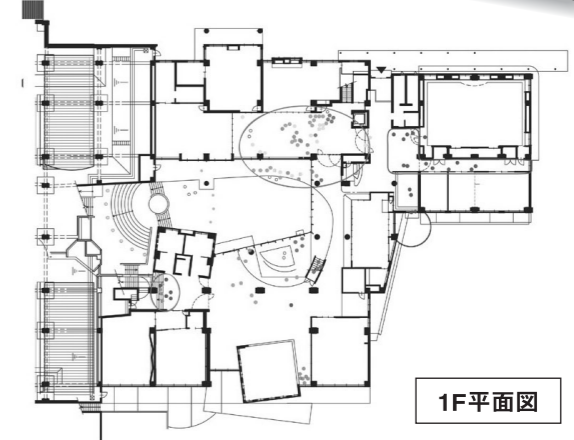


2F平面図



異学年の児童の存在が見られる場所

- 1年生
- 2年生
- 3年生
- 4年生
- 5年生
- 6年生



1F平面図

子どもたちの休み時間の様子を調査

私の研究室では、新校舎での生活も1年が過ぎた2006年度の夏から、季節ごとに1週間ほど、子どもたちが休み時間にどこにいるのかを調査しました。中庭を屋上からビデオカメラで撮影するとともに、予め決められた時刻に校舎内を数人の調査員が写真を撮り、それを見ながら休み時間の子どもたちの滞在場所や様子を平面図上に再現しました。

記録されたデータを見ると、1・2年生は教室周りや中庭で過ごしていることがわかりますが、3・4年生の中には北側の1・2年生の教室付近にいる子がいます。一方、下の階の図書室や特別教室周りには子どもは少なく、一部の子どもたちにとっての休み時間中の居場所になっています。これらはひとつの階に全ての教室がある効果や影響と言えるかもしれません。

そういえば、小学校設計を経験されている設計者の方から、図書室は昇降口の近くにあると良く使われる、というお話を聞いたことがあります。校庭へ出かける、または戻ってくる時に立ち寄るということのようです。大人が時間つぶしに本屋に立ち寄るのに似ていますね。

では、石小では昇降口が遠いクラスの子供たちは外へ出かけにくくなっているかという、そんなことはありませんでした。昇降口から遠い2年生や5・6年生も、同じように出かけていきました。

特に、2時間目と3時間目の20分間の休み時間は、多くの子どもたちが校庭で遊んでおり、中庭や教室周りでの滞在は減る傾向にありました。石小の子供たちは、短い休み時間には教室周りや教室からすぐに出て行ける中庭で過ごし、長い休み時間には広い校庭で大人気で遊ぶという使い分けをしていると言えます。

中庭での上級生と下級生の交流

中庭では低学年の子どもの滞在が多いですが、同じ学年の子ども同士だけではなく、上級生と下級生と一緒に遊んでいる姿をよく見かけました。高学年の子も広い校庭を駆け回る遊びだけでなく、教室周りで過ごしたいという気持ちの現れでしょうし、6年生と1年生と一緒に遠足に出かける兄弟学年活動の成果かもしれません。そんな異学年交流の様子が休み時間の中庭で確認できます。

この兄弟学年活動は遠足だけでなく、一緒にお昼を食べたり縄跳びの練習をしたり、以前は掃除も一緒にしていたとのこと。ですので、石榑小学校の卒業式では6年生を送る言葉を在校生たちがリレーのように大きな声で述べるのですが、この兄弟学年の出来事は毎年必ず出てきます。子どもたちの大きな思い出となっています。

ところで、休み時間の居場所としてベランダはどうでしょう？学校のベランダと言えば、普通は休み時間の格好の滞在場所ですが、特に高学年のベランダでは子どもたちの姿があまり見られませんでした。やはり、子どもたちの意識は中庭をはじめ校舎の中央に向いていると言えるかもしれません。

さらに、1年間通じて子どもたちの様子を見てみると、子どもたちの遊びもどんどん変わっていくことがわかります。1年生も入学したばかりの頃は、数人で比較のおとなしい遊びをしていますが、そのうちに中庭を上下に走り回り、さらにはドッジボールやサッカーなどボール遊びを覚えると、校庭で遊ぶことも多くなっていきます。

思い起こせば、30数年前の私もそんな日々を過ごしていました。仲間と遊び、そして学ぶ。それが全ての、でも楽しい毎日でした。



中庭の滑り台は子どもたちのお気に入り



壁も子どもたちの遊び場です



先生のギター演奏で歌の練習



隠れ家で何してる？



カブトやクワガタの自慢しあい



広々した校庭では全力疾走！